

現世ぜを過ぐべき様ようは、念仏の申されん方かたによりて過ぐべし。念仏の障りになりぬべからん事をば厭い捨つべし。

一所にて申されずば、修行して申すべし。修行して申されずば、一所に住して申すべし。聖ひじりて申されずば、在家になりて申すべし。在家にて申されずば、遁世とんせして申すべし。

一人籠り居て申されずば、同行ごうぎょうと共行きょうぎょうして申すべし。共行して申されずば、一人籠り居て申すべし。衣食えじき叶わずして申されずば、他人に助けられて申すべし。他人の助けにて申されずば、自力にて申すべし。

妻子も従類も、自身助けられて、念仏申さんたためなり。念仏の障りになるべくば、ゆめゆめ持つべからず。所知所領しよしよも、念仏の助業じゆえならば大切なり。

妨げにならば、持つべからず。

惣そうじてこれを言わば、自身安穩にして念仏往生を遂げんがためには、何事もみな念仏の助業なり。

三途さんずに還るべきことをする身をみだにも、捨て難ければ、顧み育むぞかし。まして往生すべき念仏申さん身をば、いかにも育みもてなすべし。

念仏の助業ならずして、今生こんじょうのために身をとんぐ貪求するは、三悪道の業さんあくごうとなる。往生極楽のために自身を貪求するは、往生の助業となるなり。

「助業」

念仏を助ける修行。經典の読誦（三部經）、阿弥陀仏や極樂淨土を思い浮かべる觀察、阿弥陀仏を礼拝する、阿弥陀仏を讃え供養する、の四修行。
ここではさらに、念仏修行を助ける環境にまで広げて捉えている。

「三悪道の業」

地獄界・餓鬼界・畜生界という三つの苦しみの世界に転生する原因。